第６回（通算第１３回）
飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

令和元年度
飼料用米多収日本一、飼料用米活用ブランド日本一　表彰式

～飼料用米普及のためのシンポジウム２０２０～

資 料 集

シンポジウム
主催　一般社団法人日本飼料用米振興協会
後援　農林水産省

飼料用米多収日本一表彰式
主催　一般社団法人日本飼料用米振興協会・農林水産省

飼料用会活用ブランド日本一表彰式
主催　一般社団法人日本養豚協会
後援　農林水産省

資料集目次

目次	２
資料集の発刊に当たって　一般社団法人　日本飼料用米振興協会　理事長　海老澤 惠子	３
連帯のご挨拶　日本生活協同組合連合会　専務理事　藤井 喜継	４
ご挨拶　農林水産省生産局畜産部飼料課　課長　関村 静雄	５
開催要領（開催延期のお知らせ）	６
シンポジウム第一部	
基調講演　「飼料用米の推進について」	
農林水産省政策統括官付穀物課	１２
課題提起　「飼料用米の一層の普及のために」	
一般社団法人　日本飼料用米振興協会　理事　信岡 誠治	２８
表彰式　令和元年度　飼料用米多収日本一、飼料用米活用ブランド日本一　受賞者の紹介	３５
飼料用米多収日本一	
飼料用米活用ブランド日本一	
シンポジウム第二部	
①　特別講演　「日本農業の進むべき道と飼料用米の意義」	
東京大学農学部名誉教授　谷口　信和	４６
②　活動報告　「飼料用米生産者からの課題提言」	
村田　　洋　株式会社秋川牧園　生産部　次長	５６
③　活動報告　「飼料用米給与レベルの向上とブランド化を目指いて」	
池原　　彩　　株式会社平田牧場　生産本部　研究開発室長	６７
④　活動報告　京都生活協同組合におけるこめ卵の取り組み	
広池　孝之　　京都生活協同組合　地産地消推進担当	７７
まとめに代えて	
食料・農業・農村基本計画に関する私の意見	８４
加藤　好一　一般社団法人日本飼料用米振興協会・副理事長	
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会　会長	
資　料	
資料　協同組合　日本飼料工業会　について	８６
協同組合　日本飼料工業会	
資料　飼料用米の屋外・常温保管ユニット	８９
太陽工業株式会社	
資料　和牛肥育への飼料用米導入の経緯とその効果について	９１
農事組合法人　和知町升谷畜産振興組合	
資料　さくらたまごができた理由（わけ）	９９
京都生活協同組合	
奥付	１００

資料集の発刊に当たって

2020 年（令和元年）3 月 18 日

一般社団法人日本飼料用米振興協会

理事長	海老澤　惠子（中野区消費者団体連絡会）
副理事長	加藤　好一（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会）
理事	木村　友二郎（木徳神糧株式会社）
理事	阿部　健太郎（昭和産業株式会社）
理事	信岡　誠治（元東京農業大学農学部教授）
理事・事務局長	若狭　良治（NPO 未来舎）
監事	岩野　千草（中野区消費者団体連絡会）

一般社団法人日本飼料用米振興協会のホームページより資料集ダウンローいただきありがとうございます。
この資料集は、一般社団法人日本飼料用米振興協会が２０２０年３月１８日（水）に開催を企画しました「飼料用米普及のためのシンポジウム２０２０」の配布資料として編集されたものを一部修正しました。

さて、2007 年の輸入飼料の国際的高騰による畜産パニックをきっかけに、任意団体の「超多収穫米普及連絡会」としてスタートしてから今年で 13 年になります。
飼料用米普及のため、毎年シンポジウムを開催してきましたが、2014 年 4 月に一般社団法人日本飼料用米振興協会として法人化し、今回はその６回目のシンポジウムとして企画いたしました。
しかし、今回、「新型コロナウイルス」による世界的な感染症の大流行から、今後一層の蔓延が危惧される事態となり、やむを得ないとの判断で延期（中止）のやむなきに至りました。
しかし、このシンポジウムの準備にご協力を賜りました多くの方々、また、シンポジウムでのご挨拶やご講演、ご報告をお願いした方々に原稿をいただきました。
今回、配布用に編集しました資料集を当協会のホームページでご覧いただき、また、入手していただけるように一部の語彙を修正するなどを行い再編集いたしました。開催趣旨であります「飼料用米の普及推進のために」の目的に資するためにＰＤＦ形式による電子書籍として皆様にご提供することにいたしました。
今後の飼料用米の普及推進や研究にお役立てください。

１０年以上にわたり飼料用米の普及活動を積み重ねる中で、国の制度及び生産、流通、保管などについて沢山の課題があり、又それらの解決が容易でないこともわかってきました。
様々な要因がある中で、令和元年度の飼料用米作付け面積および生産量は前年よりも減少してきました。
その中で、課題を克服しながら意欲的に取り組んでいる生産者の方々が多くいらっしゃることはとてもうれしいことです。

さて、平成 28 年度から、農林水産省との共同事業として取り組んでおります「飼料用米多収日本一　表彰事業」も令和元年度で 4 回目になりました。飼料用米を低コストで多収穫できる生産を目指し、多収穫品種や耕畜連携で得られる堆肥の使用促進と、そのための農業従事者の生産技術や成果で優れた実績を上げた個人や組織を表彰し、その成果を広く紹介、普及しようというものです。
その表彰式も、「飼料用米活用畜産ブランド日本一」の表彰と併せて、シンポジウムの会場で行う予定でした。既に受賞者も決定し、2 月 25 日には農林水産省から発表されました。しかし、シンポジウムを中止している状態ではその場での表彰状の授与は行えません。別途行えるように検討を進めております。
わが国の米政策をめぐっては、一昨年から米の生産調整いわゆる減反政策が廃止され、その影響がどうなるのかとても関心の高い所です。
日本飼料用米振興協会としては、いろいろな方面からの問題提起や情報交換のできる場となることに努め、飼料用米による畜産が特別ではない当たり前のこととして普及するよう、行政及び関係各位と考えていきたいと思っております。
飼料用米普及の活動を前進させるために、この資料集がお役に立つことを願います。

連帯のご挨拶

日本生活協同組合連合会
専務理事　藤井 喜継

日頃より全国の生協が事業や地域の諸活動において大変お世話になっております。
この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。
シンポジウム資料集の発刊に当たり、一言、連帯のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人飼料用米振興協会は、2007 年の世界的な穀物相場の高騰の中、畜産事業者の経営改善を図ることを目的として、多収量米、とりわけ飼料用米の普及活動の発展に貢献されてきました。今般の情勢を見据えた時、御会の活動が更に重要な役割を果たされていくものと期待しております。

世界的な異常気象や不安定な国際情勢の中で、世界の人口は増加し、それにともなって食料需要も拡大します。TPP11 や日欧 EPA 、日米 FTA など各国との経済連携協定が締結され、農林水産物・食品の輸出額も 6 年連続で増加しています。

一方で、担い手や農地など生産力の低下に歯止めがかからず、日本の食料自給率（カロリーベース）は 2018 年に 37%と過去最低の水準となりました。食料の安定供給や安全･安心、国内農業の持続可能性への不安が増していくと思われます。

その一方で、「持続可能な開発目標（SDGs）」が 2015 年の国連総会で採択され、環境や社会、人権等に関する共通の 2030 年目標（ゴール）に向けて、日本を含む世界各国で行政、協同組合、企業、NGO など多くの組織が取り組みを始めています。私たち日本生協連も 2018 年 6 月の第 68 回通常総会で「コープ SDGs 行動宣言」を採択し、持続可能な社会の実現に大きく貢献していくことを社会に対して約束（コミット）したところです。

飼料用米の活用は SDGs の目標に係わる重要な取り組みとして位置づけることができます。水田の活用は国内生産力の維持に加え、地域内での経済循環、地域の環境や景観、生物多様性の保全、コミュニティを維持など多面的な機能につながります。

水田を一度放棄してしまうと、再び取り戻すことは容易ではありません。

飼料用米で地域農業がさらに活性化されることで、消費者にとっても「交流」「学び」「体験」の大切な場となっていくでしょう。自然の豊かさを感じ、農業や生き物の大切さを理解するなど、「食と農」をつなぐ取り組みは、豊かなくらしの実現に大きく寄与しています。

地域とともに歩む生協は、今後も飼料用米の作付面積・生産量の確保、販路の拡大、コストの削減、組合員認知の向上などの取り組みを通じて、飼料用米の利用を引き続き推進してまいりたいと思います。

今年 2020 年 6 月の日本生協連総会では“つながる力で未来をつくる”とする 2030 年ビジョンを採択し、新たな挑戦の 10 年へと踏み出すこととしています。飼料用米をはじめとした地域社会づくりの取り組みが地域の人々のくらしをより豊かにし、日本の農業を強めていくことを誓い合って、ご挨拶とさせていただきます。

以上

ご挨拶

農林水産省生産局畜産部飼料課　課長　関村 静雄

飼料用米普及のためのシンポジウム 2020 の資料集発刊に当たり、ご挨拶申し上げます。

農林水産省では、平成 27 年３月に策定した「食料・農業・農村基本計画」に基づき、飼料用米をはじめとした戦略作物の生産性の向上や本作化を推進してきました。

現在、「食料・農業・農村基本計画」は５年に一度の見直し作業を行っており、本年３月末に公表することとしています。

この見直しにおいては、特に、飼料自給率を食料自給率に反映させる場合とさせない場合の在り方なども議論されております。我が国では、特にとうもろこし等の濃厚飼料を輸入に依存しているため、海外市況や為替変動による輸入価格の乱高下や高止まりの影響を受けやすいことから、国内の飼料基盤に立脚した足腰の強い畜産経営を目指しているところです。

こうした中、我が国の気候に適している飼料用米の生産とその利用の拡大は、国産濃厚飼料の自給率向上の基軸にもなるものであり、安定的な畜産経営をめざす上で大変重要であるとともに、水田の有効活用の観点からも有効な取組と考えています。

令和元年産の飼料用米の作付面積は約７万３千 ha で、前年より約７千 ha 減少しましたが、実需者である飼料業界主要４団体からは約 120 万トンの需要があるとの要望を受けていることから、安定的に供給する体制を整備することが重要であります。

「飼料用米多収日本一」又は「飼料用米畜産物ブランド日本一」の表彰を受けられた耕畜双方の生産者の皆様の取組を始めとして、本シンポジウムに向け準備いただいた先進的な取組事例が、広くご紹介され、同様の取組が普及することにより、飼料用米の安定した供給とそれを給与した高品質な畜産物の生産拡大が推進されることを大いに期待しているところです。

最後になりましたが、「飼料用米多収日本一」及び「飼料用米畜産物ブランド日本一」の表彰を受けられた皆様の益々のご発展と、飼料用米関係者の皆様のご活躍を祈念しまして、私の挨拶といたします。

飼料用米普及のためのシンポジウム２０２０

主　催　　：一般社団法人　日本飼料用米振興協会
後　援　　：農林水産省

一般社団法人　日本飼料用米振興協会　正社員
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
木徳神糧株式会社
昭和産業株式会社
シンジェンタジャパン株式会社
中国工業株式会社
ヤンマーアグリジャパン株式会社
株式会社木村牧場（青森県）
株式会社秋川牧園（山口県）
有限会社鈴木養鶏場（大分県）
滋賀県飼料米利活用推進協議会
中野区消費者団体連絡会
ＮＰＯ未来舎

一般社団法人　日本飼料用米振興協会　賛助会員
日本生活協協同組合連合会
生活協同組合おかやまコープ
庄内みどり農業協同組合、
栃木県開拓農業協同組合
株式会社平田牧場
ＪＡ加美よつば農業協同組合、
太陽工業株式会社

シンポジウム協賛団体
東都生活協同組合

飼料用米多収日本一表彰

主　催　：一般社団法人日本飼料用米振興協会　・　農林水産省

後　援　：一般社団法人全国農業協同組合中央会　　全国農業協同組合連合会　　協同組合日本飼料工業会

協　力　：株式会社日本農業新聞

飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰

主　催　　：一般社団法人日本養豚協会

後　援　　：農林水産省、一般社団法人全国農業協同組合中央会、公益社団法人中央畜産会

開催要領（開催延期・中止のお知らせ）

一般社団法人　日本飼料用米振興協会（j-fra）は、２０２０年２月２４日に第６回「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会　平成 30 年度　飼料用米多収日本一表彰式・飼料用米活用畜産物ブランド表彰式　～飼料用米普及のためのンポジウム２０２０～」の開催延期・中止をしました。皆様にご案内しました「開催要領」は次の通りです。

開催企画の内容

第６回（通算第１３回）飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

令和元年度　飼料用米多収日本一、飼料用米活用ブランド日本一　表彰式

～飼料用米普及のためのシンポジウム２０２０～

日時：２０２０年（令和２年）３月１８日（水）
開場：１０：３０　シンポジウム開始　１１：００　終了　１７：００
会場：東京大学弥生キャンパス　弥生講堂・一条ホール、ロビー、会議室
＜一条ホール：シンポジウム、表彰式＞＜ロビー：資料展示＞＜会議室：試食会＞

プログラム

シンポジウム第一部　午前（１１：００～１２：００）

挨拶　（一社）日本飼料用米振興協会　理事長　海老澤 惠子
ご挨拶　日本生活協同組合連合会　専務理事　藤井 喜継
ご挨拶　農林水産省生産局畜産部飼料課　課長　関村 静雄
基調講演　「飼料用米の推進について」
農林水産省政策統括官付穀物課
課題提起　「飼料用米の一層の普及のために」
（一社）日本飼料用米振興協会　理事　信岡 誠治

昼休（試食会、資料展示）ロビーで資料展示、会議室で試食会を実施します。

資料展示、試食会

試食会　昭和産業（オール国産配合飼料を給与いた鶏卵のゆでたまご）
平田牧場（飼料用米の配合比率を高めた金華豚、三元豚肉のシャブシャブ）
資料展示　一般社団法人日本飼料用米振興協会（協力　東京農業大学）
つくば鶏（内外食品株式会社）
平田牧場（飼料用米給与の取組み）

表彰式　令和元年度　飼料用米多収日本一、飼料用米活用ブランド日本一　表彰式

◆表彰式運営次第

飼料用米多収日本一　賞状等　授与

13:00　開会・挨拶　農林水産大臣（予定）

13:05　飼料用米多収日本一　賞状等　授与

農林水産大臣賞、政策統括官賞

全国農業協同組合中央会・会長賞、全国農業協同組合連合会・会長賞

協同組合　飼料工業会・会長賞、日本農業新聞賞

13:30　農林水産大臣賞受賞者 挨拶

13:35　集合写真撮影

飼料用米活用ブランド日本一　賞状等　授与

13:50　飼料用米活用ブランド日本一　挨拶　（一社）日本養豚協会　会長　香川　雅彦

13:55　飼料用米活用ブランド日本一　審査委員長講評

14:00　飼料用米活用ブランド日本一　賞状等　授与

農林水産大臣賞、政策統括官賞

全国農業協同組合中央会・会長賞、公益社団法人畜産中央会・会長賞

審査員特別賞（新設）

14:10　農林水産大臣賞受賞者 挨拶

14:15　集合写真撮影

14:20 閉会

シンポジウム第二部　午後（１４：３５～１７：００）

14:35～15:00　①　特別講演　「日本農業の進むべき道と飼料用米の意義」

東京大学農学部名誉教授　谷口　信和

15:00～15:25　②　活動報告　「飼料用米生産者からの課題提言」

村田　　洋　株式会社秋川牧園　生産部　次長

15:25～15:50　③　活動報告　「飼料用米給与レベルの向上とブランド化を目指して」

池原　　彩　　株式会社平田牧場　生産本部　研究開発室長

15:50～16:15　④　活動報告　京都生活協同組合におけるこめ卵の取り組み

広池　孝之　　京都生活協同組合　地産地消推進担当

16:15～16:45　**総括質疑応答**：進行役：理事　信岡　誠治

16:45～16:55　**閉会挨拶**（一社）日本飼料用米振興協会　副理事長　加藤　好一

（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会　会長）

17:00　**閉会**

主催：一般社団法人日本飼料用米振興協会

後援：農林水産省

参加費無料　　ホームページ（http://www.j-fra.or.jp/）で参加者募集を行いました。

意見交換懇親会（参加自由、有料）

17:30～19:00　意見交換交流会（懇親会）　意見交換懇親会

会　場：東大農学部正門から徒歩約６分　東大正門前

上海・四川料理の「美味しい屋」　参加費：３、５００円

開催趣旨

一昨年、平成３０年産から、日本のコメ政策は大きくカジを切り、国による米生産数量目標の「配分」はなくなり、全国の需要量の見通しを示す「情報提供」に変わりました。

また、10a あたり 7,500 円の米の直接支払交付金も廃止となりました。

国は需要に応じた生産を推進するため、業務用米需要への対応、播種前契約等による安定取引の推進、多収品種による飼料用米の本作化などを打ち出し、現場で混乱が生じないように務めてきました。

米政策改革の進展は稲作農家の大きな関心事です。とくに米価の変動は稲作農家の収入に直結しておりますが、販売競争は今後、一層激化するものと思われます。

一般社団法人飼料用米振興協会は、2007 年に起きた、世界的な穀物相場の高騰の中で、稲作と畜産の経営改善を図ることを目的としてスタートし、飼料用米の普及活動を中心として活動をしてまいりました。

今後の食料自給率の向上を目指すうえでも、主食用米、飼料用米を合わせ国産米の今後の動向は大変関心の高いところです。

コメに対する関心を高め、今後の方向性を探るために、第１回（2016 年 11 月 1 日）、第２回（2017 年 11 月 15 日）、第３回（2018 年 11 月 28 日）、第４回（2019 年 11 月 13 日）と４回の「コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」を開催してきました。

参加者の関心は高く多くの方々の参加をいただいており、様々な意見を頂戴しております。

今後、一つ一つの課題の改善を図ると同時に政府に対して、飼料自給率の向上への一層の奨励策を要望いたします。

経　緯

本協会は、2007 年（平成 19 年）に穀物価格が高騰したいわゆる「畜産・大パニック！」の際に、国内の畜産農業を守り、食料自給率の向上などを目的に開催された「学習会」を起点に組織された「超多収穫米普及連絡会」が出発点です。

その後、飼料用米の普及や、日本型循環畜産と農業・流通・消費の耕畜連携を目指して活動してきました 7 年間の活動実績を踏まえて、更なる推進のために 2014 年（平成 26 年）4 月に一般社団法人として再出発をしました。

（2015 年 3 月 20 日）、法人化第１回（通算 8 回目）「飼料用米普及のためのシンポジウム 2015」。
（2016 年 3 月 11 日）、法人化第２回（通算 9 回目）「飼料用米普及のためのシンポジウム 2016」。
（2017 年 3 月 17 日）、法人化第３回（通算 10 回目記念）「（第１回）平成 28 年度飼料用米多収日本一表彰式～飼料用米普及のためのシンポジウム 2017～」。
（2018 年 3 月 9 日）、法人化第４回（通算 11 回目）「（第２回）平成 29 年度飼料用米多収日本一表彰式・（第１回）飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式～飼料用米普及のためのシンポジウム 2018～」。
（2019 年 3 月 9 日）、法人化第５回（通算 12 回目）「（第３回）平成 29 年度飼料用米多収日本一表彰式・（第２回）飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式～飼料用米普及のためのシンポジウム 2019～」。

を開催してきました。

今年、2020 年 3 月 18 日に、法人化第６回（通算 13 回目）「（第４回）令和元年度飼料用米多収日本一表彰式・（第３回）飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式～飼料用米普及のためのシンポジウム 2020～」を開催することにしておりました。

残念ながら、全世界的に流行しております感染症：新型コロナウイルスを防止する観点から延期の判断をいたしました。表現的には延期としましたが、2020 年 3 月の状況では終息の見通しがございません。
シンポジウムの主催者である一般社団法人日本飼料用米振興協会では、毎年 11 月に開催しております「コメ政策と飼料用米に関する意見交換会」との共同開催を含めて検討を進めておりますが、時間の設定や会場の確保などを勘案しますと、実施が困難との判断に至り、中止としました。
なお、今回本資料集を発行することにより、第６回（通算１３回目）のカウントを行うこととし、次回は第７回（通算１４回目）といたします。

皆様におかれましても様々なご意見、ご提案もあるかと存じます。
今後の運営に関しましてご教示賜れば幸いでございます。
なお、「（第４回）令和元年度飼料用米多収日本一表彰式・（第３回）飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式」につきましては、既に受賞者を決定しております。
関係各位と調整を図りましたが、新型コロナウイルスの終息が見通せない中で、受賞者の皆様に「表彰状・副賞盾」を直接ご自宅にお送りいたしました。
関係各位には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

準備してまいりました今年のシンポジウムの内容紹介

今年、「飼料用米多収日本一表彰式・飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式」という二つの日本一表彰式を挟んで、「飼料用米普及のためのシンポジウム 2020」（一部、二部）と「資料展示・試食会」の四部構成となっていました。

シンポジウム第一部

当協会および日本生活協同組合連合会および農林水産省からご挨拶を予定しました。
日本における食料自給力の向上を目指す立場から主食用米および飼料用米の生産から普及への政策について農林水産省生産局畜産部飼料課および政策統括官穀物課によるご挨拶と基調講演としてお願いしました。
また、飼料用米の普及に努めてまいりました当協会としまして、今後の一層の利用普及を促進する立場からのご提言をさせていただく準備をしてまいりました。

資料展示（ロビー）

太陽工業株式会社（飼料用米の屋外・常温保管ユニット、防疫対策としての通路改良剤など）、
昭和鶏卵産業株式会社（オール国産配合飼料使用鶏卵：和のしずく）
株式会社木村牧場（粉砕籾米飼料用米給与の養豚事業と巨大ビニールハウス籾米の保管）、
株式会社平田牧場（飼料用米給与の金華豚・三元豚）
有限会社鈴木養鶏場（飼料用米生産者との提携、飼料用米を給与した卵、有精卵、スウィーツ、鶏肉）

試食会（会議室）

昭和産業株式会社・昭和鶏卵業株式会社（オール国産配合飼料使用鶏卵のゆでたまご）
株式会社平田牧場（飼料用米給与の金華豚・三元豚のシャブシャブ）

飼料用米多収日本一表彰式・飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式

一昨年、昨年に引き続き、一般社団法人日本飼料用米振興協会と農林水産省が共同で実施してきました**「第４回飼料用米多収日本一表彰事業」**と昨年度に発足しました**「第３回飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰事業」**（一般社団法人日本養豚協会が農林水産省の補助事業で実施し、農林水産省が後援）の受賞者の紹介と表彰式の準備を進めてまいりました。

シンポジウム第二部、飼料用米の普及事業の様々な事例や課題を紹介します。

特別講演　「日本農業の進むべき道と飼料用米の意義」
谷口　信和　　東京大学農学部名誉教授（日本農業年報 65 号　編集代表）
活動報告　「飼料用米生産者からの課題提言」
村田　　洋　株式会社秋川牧園　生産部　次長
活動報告　「飼料用米給与レベルの向上とブランド化を目指いて」
池原　　彩　　株式会社平田牧場　生産本部　研究開発室長
活動報告　京都生活協同組合におけるこめ卵の取り組み
広池　孝之　　京都生活協同組合　地産地消推進担当

以上の様々な研究や事業、消費に至る飼料用米の一貫した様々な取り組みを理解していただく「場」として企画しました。多くの消費者、主婦をはじめ、配合飼料メーカー、物流事業者、保管事業者、農業協同組合、農事法人、農家、研究者、学生などの方々が理解しやすい日本における水田のフル活用、飼料用米の利活用について皆様と考え、交流する場として企画準備いたしました。

シンポジウム会場で講演・報告者の資料集を配布する準備を進めてまいりましたが、残念ながら現状では会場での配布は不可能となりました。
今回は、作成しました資料集は電子辞書でありますＰＤＦファイルとして作成し、ホームページで入手していただけるようにセットいたします。ご活用ください。

意見交流会（懇親会）は残念ながら中止いたしました。

シンポジウム終了後、毎年、交流懇親会を開催してきました。
昨年は、東大正門の中華料理店「美味しい屋」で開催しました。
今年も予約をしておりましたが、残念ながらキャンセルをいたしました。